

【人口減を生き抜く④】



# AI産業 八戸が先手打て

提言

起業家育成 大谷 真樹 八戸学院大学長

## UIターン、労働力呼び込みの契機に

**略歴** 2007年、東北IT産業育成センターを創設。2007年にインフォコムと経営統合し、ヤフー・パルティネットに社名変更。経営者引退後、八戸大(現八戸学院大)の客員教授、総合研究所長を経て12年に第12代学長に就任した。09年から同大の起業家育成講座を主催し、現在第13期目。これまでに約1,500人が受講し、約30人が起業、新規事業に乗り出した。八戸市が進めるIT産業育成の企業誘致にも関わり、同市出身。



青森県は人口減少の加速度が大きい。高校を卒業した18歳の流出に何時する必要もある。既に将来の人口動態は確定しているものであり、危機感を持って取り組まなければならない。影響は経済や産業、社会インフラなど多岐にわたる。そこで重要なのは▽起業▽移住(他エリア・海外)▽IT産業のキーワードだ。八戸学院大が主催している「起業家育成講座」では実際に事業を興した人が増え、雇用面でも一定の成果が出ているが、まだインパクトは小さい。地方でも情報格差はなくなった。半面、大卒生などのネットワークはまだ。今は孤軍奮闘している人同士がつながり始めている段階。もっと大きい流れをつくることができれば、まちな人が活性化していくだろう。移住希望者の目を八戸に

将来的な地域の存続や活力に関わる人口減少問題。北東北随一の産都市・八戸市でも人手不足が深刻化し、2040年に向けて働きの人数は分断する予測だ。悲観的な未来にならないよう、われわれが今すべきことは何か。八戸地域で起業家を育成している八戸学院学長の「大谷真樹氏」は「人口減を生き抜く方策として、八戸型ライフスタイルの発信による移住促進を提唱。ITや人工知能(AI)を先駆的に取り入れた都市を目指すことが鍵になる」と語る。大谷の提言をまとめた。

## 仕事、家庭、遊び「調和」取れる街 発信を

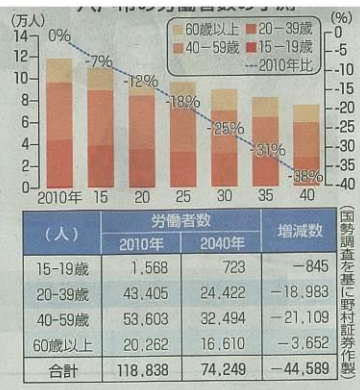
向けさせるには、地域の特性を生かした「八戸型ライフスタイル」が鍵になる。食や自然、文化をはじめ、程よい都市の規模感があることも立派な強みだ。これら全てを八戸の魅力としてアピールすべきだろう。今は仕事・生活のバランスを取る「ワークライフハーモニー」が謳われる。だが、八戸においては多様なライフスタイルの中に仕事がある「ワークライフハーモニー」を提唱したい。何かを犠牲にしなければならぬ。首脳と違い、可処分時間が多い八戸の生活は「調和」が取れるのが特長だ。八戸型ライフスタイルを掲げる上で、課題は情報発信の方法。個人レベルで生み出す影響力は限定的で、行政と既存の団体が連携した発信が必要になる。最先端のITやAIなどの新技術は、企業活動の場所が東京ではなくてもいいことを確立している。人口流出を防ぎ、UIターンや移住による豊富な労働力を呼び込む契機になる。

## 食、自然、文化…「程よい都市」立派な強み

八戸には現在、IT系のも置き換えられない労働力が十数社あり、千人を雇える企業を生み出している。今後はITの上位型であるAI関連の企業が進出できればいい。クリエイティブ系やデザイン系の事業こそ「ワークライフハーモニー」が必須だ。今やAIの中核を担う国産。こうした海外のAI部分を八戸に取り入れるに置き換える。きつと豊かさの質は上がるだろう。八戸は世界から見たら大都市。国際都市になってもおかしくない。そのためには八戸型ライフスタイルを前提として、いかに特化した都市になるか戦略的に選択することが大事。ITやAIは大きな可能性を秘めており、八戸が先手を打てば、八戸企業の人手不足はさらに深刻になる。仕事の生産性向上が重要な。知的分野はAIが担えても、どうして

「ワークライフハーモニー」とは

- 八戸での暮らしは時間にゆとりがある
- まちは食、自然、文化など多彩な魅力にあふれる
- 仕事、家庭生活、遊びの「調和」が取れる
- 多様なライフスタイルの中に仕事がある感覚で生活できる  
例…夏場はサーフィンを楽しみながらIT関係の仕事
- 他地域・海外からの移住、UIターンにつながる



【AI系に関する記事】